看護学科 3年　前期　専門基礎科目／専門科目

1．成人看護学実習Ⅰ

2．成人看護学実習Ⅱ

3．高齢者看護学実習Ⅱ

4．小児看護学実習

5．母性看護学実習

6．精神看護学実習

7．在宅看護学実習

8．看護研究Ⅲ（事例研究）

看護学科

科目名: 成人看護学実習Ⅰ					担当教員 氏名: 大橋達子、中田 智子
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修／選択	備考
3	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
手術を受ける患者の術前・術中・術後の特徴を理解し、患者および家族のニーズに応じた看護過程を展開し、手術を受ける患者の回復支援のための看護師の役割を理解することができる。手術中患者の看護の要点を知ることができる。クリティカルな状況にある患者の特徴と看護を知ることができる。	生体侵襲 生体反応 臨床判断 共同問題 社会復帰

授業における学修の到達目標

学習教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10
A 知識・理解力	これまで学んだ知識と見学・体験した看護を統合することができる。
B 専門的技術	患者の安全を確保して、その人に応じた方法で援助を提供することができる。
D 問題解決力	受け持ち患者の看護過程の展開を実践することができる。
F チームワーク・リーダーシップ	グループでの自己の役割を理解し、自己の責任を果たすことができる。互いの情報を共有して助け合うことができる。
G 倫理観	自らを律して、人・社会人として看護師を志す者として、自己を見つめ新たなる自己成長を目指すことができる。

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %

特記事項:
出席状況、実習中の積極性を重視する。課題レポート、実習記録の提出その内容から総合的に判断する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　(実習、フィールドワーク)

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習前課題にコメントして返却し、不備のある学生は再提出を課す。

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
＊実習日程・内容等の詳細については実習要項に記載	予習:疾患と看護について、整理したノートの提出	
	復習:実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出	
	事前の演習(1):4事例を提示し、学生同士で演習	
	事前の演習(2):手術室の手洗い、ガウンテクニック、無菌操作、洗髪、足浴、清拭の演習	

使用テキスト:1. 矢永勝彦他編集:系統看護学講座;別巻 臨床外科看護総論, ISBN978-4-260-02769-4 医学書院. 2. 北島政樹他編集:系統看護学講座;別巻 臨床外科看護各論 ISBN978-4-260-02765-6 医学書院. 3. 看護診断ハンドブック第11版, ISBN978-4-260-03451-7 医学書院.

その他参考文献など:
竹内登美子:周手術期看護1～5(医歯薬出版株式会社)
本庄恵子監修:写真でわかる臨床看護技術②(インターメディカ)

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
本実習の目的を理解し、目標の到達に必要になる行動目標を明確化して毎日の実習に臨んでほしい。担当教員および指導者と報告・連絡・相談を密に行い、行動計画を修正しながら積極的に実習に臨んでほしい。

看護学科

科目名： 成人看護学実習Ⅱ					担当教員 氏名： 小倉 之子 他	
単 位	開講時期（年次・期）		科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修／選択	備考
3	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：						

授業科目の学習教育目標の概要：	キーワード
慢性病をもつ対象者や、回復期・終末期にある対象者を理解するとともに共感的態度の育成を目指し苦痛の緩和や自己実現への支援およびQOLの向上を目指した看護援助の実際を学ぶ。	病・回復期・終末期看護 護過程の展開と実践、 継続看護、QOL

授業における学修の到達目標

学習教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連）	自己形成を進める行動目標（福短マトリックスで示される番号） 1．2．3．4．5．6．7．8．9．10
A 知識・理解力	机上で学んだ知識を臨地で繋げることができる
B 専門的技術	単に基礎的な技術方法ではなく、その人に応じた方法を提供することができる
C 論理的思考力	対象者の情報収集・アセスメントを論理的に整理することができる
D 問題解決力	対象者の困りごとを共有し，改善方法を看護過程思考を用いて患者とともに考えることができる
E 自己管理力	4週間の実習の中で身体的調整，精神的調整を行いながら、自己を見つめなおして新たなる自己成長を目指すことができる

成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト： %	レポート： 80 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %

特記事項：
出席状況、実習中の態度や積極性を重視する。
レポート課題、実習記録の提出などの期限は厳守すること。
実習事前課題は、再提出も含めて実習前に提出すること。

アクティブラーニング要素：
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期：実習最終日に記録物を提出。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：毎日の実習記録について助言し、記録の修正をする。

授 業 計 画	準備学習（予習・復習等） 学習内容	学習に必要な時間（分）
＊実習日程・内容などの詳細については、実習要項に記載 実習病院： 射水市民病院 、真生会富山病院 富山西総合病院 、富山西リハビリテーション病院	【予習】事前学習：疾患と看護について、整理したノートの提出。実習期間中は、翌日の実習行動計画を立案し、実習に臨む 【復習】毎日の実習終了後は、実習日誌、看護過程展開などの記録の整理をする。事後学習：実習の振り返りを行い、実習記録を整理し、提出	【予習】120分 【復習】120分

使用テキスト：	その他参考文献など：1.経過別成人看護学3慢性期看護,メヂカルフレンド社.2.ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント,ヌーヴェルヒロカワ,渡邊トシ子編.3.看護診断ハンドブック第11版,医学書院.リンダJカルペニート.

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：
本実習の目的を理解し，目標の到達に必要になる行動目標を明確化して毎日の実習をに臨んでほしい．
受身ではなく毎日の実習目的を自ら提示し，指導者と相談・連絡・報告し修正しながら積極的な姿勢で実習に参画されることを望む．

看護学科

科目名: 高齢者看護学実習Ⅱ					担当教員 氏名: 荒木晴美、高橋絹代 他
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修／選択	備考
2	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
対象者及び家族の思いを尊重しながらQOLの向上を目指し、高齢者の特性を踏まえた看護過程を展開する。	高齢者の特性　生活支援 QOLの向上　看護過程

授業における学修の到達目標

学習教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 6. 7. 9. 10
A 知識・理解力	現在までに得た知識や技術を実践の場で活用・統合することができる。
B 専門的技術	高齢者特有の健康問題に対し、具体的援助方法を考え提供することができる。
C 論理的思考力	看護行為にあたり、その根拠を述べることができる。
D 問題解決力	高齢者の健康問題を解決するための看護過程を展開することができる。
G 倫理観	高齢者の尊厳を重んじ、人権に配慮した対応ができる。

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 実習記録 態度 100 %

特記事項: 実習への積極的取り組みを重視する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　(ディスカッション、ディベート)　グループワーク　プレゼンテーション　(実習、フィールドワーク)

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習記録は毎日教員が確認、指導する。

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
実習期間:3週間の実習を行う。	【予習】 予習課題(実習前に提示) 実習中は適宜追加学習	【予習】120分 【事後】120分
実習施設:県内の病院	【事後】 まとめのレポート(記録)	
＊詳細については実習要項に記載、オリエンテーションで説明する		

使用テキスト: ①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他:系統別看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1	その他参考文献など:

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 体調を整え実習に望んでください。

看護学科　　３ 年

科目名: 小児看護学実習					担当教員 氏名:古里直子　他	
単　位	開講時期(年次・期		科目の区分	授業方法	必修・選択	備考
2	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	看護師の実務経験を生かして指導看護師と共に臨床看護や対象児とその家族の健康問題、心理状態を理解できるように指導を行う

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
子どもの成長・発達や生活環境の特徴を理解し、子どもと家族の健康を支える地域での医療・保育・施設における看護支援から「子どもの最善の利益」を考えることができる。人間性と倫理性を身につけ、それぞれの健康のレベルに応じた看護支援の実践を学ぶ。	健康障害・家族のニード・看護支援・成長・発達・地域支援

授業における学修の到達目標

学習教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連）	自己形成を進める行動目標　１．２．５．６．７．８．
A　知識・理解力	①発達段階、疾患などさまざまな状態にある子どもとその家族に生じやすい問題について理解する。
B　専門的技術	②子どもの最善の利益を追求する態度と支援について学ぶ。
C　論理的思考力	③子どもとその家族のニードに応じた援助のあり方を学ぶ。
B　専門的技術	④地域で暮らす子どもと家族に対する看護師の役割と対処を学ぶ。
E　自己管理力	⑤実習中の自己の健康管理ができ、欠席しない。
F　チームワーク・リーダーシップ	⑥グループ内での役割(リーダーシップ、メンバーシップ)を持ち、実習を遂行できる。
G　倫理観	⑦適切な報告、連絡、相談ができる。 ⑧真摯な態度で実習に臨むことができる。
H　コミュニケーション力	⑨実習にかかわる人々と意思疎通ができる。

成績評価の基準と方法:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト:　%	レポート:　50 %	発表:　10　%	実技:　10　%	その他:　30　%

特記事項:
以下により総合的に評価する。
　出席状況・ 実習記録類・ 課題レポート・ 実習中の学習態度

＊　提出物は期限を厳守すること。
＊　原則として遅刻、欠席は認めない。

アクティブラーニング
課題解決型学習　ディスカッション、デ　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールド

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:病院と保育園では、木曜日にカンファレンスを実施する。カンファレンスの中で各自の学びを発表し、グループダイナミクスを活かした学びを共有する。最終日に実習記録の内容をもとに個別に面談を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:事前学習、実習中の学習態度、記録物や課題レポートなどについて実習の段階的な場面でコメントや助言を返し、最終の面談の中で総合的に評価する。

授　業　計　画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
2・3年次　2単位:　90時間 実習施設: ・富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 独立行政法人国立病院機構富山病院　1W ・小児科診療所（外来・クリニック）1W ・西部保育園、作道保育園　1W ＊詳細については実習要項に記載	【予習】:事前課題 ①小児の成長・発達 ②小児の疾病治療・看護 ③障がい児看護 【復習】:国家試験につなげる学習(知識と体験の統合)	【予習】120分 【復習】120分

使用テキスト:	その他参考文献など:
・系統看護学講座　小児看護学①　医学書院　ISBN　978-4-260-02002-2 ・系統看護学講座　小児看護学②　医学書院　ISBN　978-4-260-01990-3 ・新訂版　写真でわかる小児看護技術　インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-409-4 ・ナースの小児科学　改訂6班　中外医学社　ISBN 978-4-498-07570-5	写真でわかる重症心身障害児のケア　インターメディカ出版　ISBN: 978-4-89996-363-9

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
・子どもは発達段階に応じた関わりが必要です。看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりを意識しながら実習を進めてください。
＊遅刻、欠席は原則として認めません。感染防止と自己健康管理に留意し実習に臨んでください。

看護学科　　2～3 年

科目名: 母性看護学実習					担当教員 氏名:炭谷靖子、稲垣尚恵	
単　位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修／選択	備考
2	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	臨床経験を活かし、助産師が行う看護の意図や根拠を説明しながら指導します。

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の対象とその家族過程の特徴を理解し、母子とその家族における看護の展開について学ぶ。さらに、女性の健康づくりと母子保健の現状について体験的に学び、これらの学習を通して自己の生命観、母性・父性観を発達させる。	マタニティサイクル　女性と子ども　家族　成長発達　役割適応　健康診査　保健指導　母子保健　子育て支援　ウエルネス志向 生命観　母性観　父性観　倫理的配慮

授業における学修の到達目標

学習教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号)	1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9
A 知識・理解力	母性看護の基礎的知識の理解を深める。	
B 専門的技術	母性看護の対象に必要な援助技術を理解する。	
D 問題解決力	受持事例の看護過程を展開し、事例の問題解決に必要なケアを考えることができる。	
G 倫理観	母性看護の対象の倫理的問題(自己決定の支援、プライバシーの保護や個人情報の保護、対象の権利擁護など)を思考する。	
H コミュニケーション力	看護ケア実践に必要なコミュニケーション技術を用い、受持事例やその家族、実習施設の指導者、学生、教員との円滑な関係性を図ることができる。	

成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート:40 %	発表:10%	実技:40%	その他:10%

特記事項:
母性看護学実習評価表、レポート課題、実習態度や積極的な取り組みなどを基に評価する。
実習3週目には教員と面談し、受け持ち事例のケアを通しての学びを報告し最終評価とする。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:

授　業　計　画

実習期間:　2年後期～3年後期の期間中　3週間の実習

実習方法:　＊詳細については実習要項に記載

対象	実習環境	実習施設
妊娠期	産科外来	厚生連高岡病院 高岡市民病院 市立砺波総合病院
分娩期	産科病棟	
産褥期		
新生児期		
地域での母子保健支援	市町村保健センター	射水市　小矢部 高岡市　氷見市
	助産所	たんぽぽ助産院 ひまわり助産院 さかえ助産院 にじいろ助産院

準備学習(予習・復習等)

学習内容	学習に必要な時間(分)
以下の内容について事前学習し実習に臨んでください。 1. 母性看護学概論・援助論、母性小児疾病治療管理論の講義・演習(援助技術)内容の振り返り 2. 妊娠・産褥・新生児期の母親と胎児・新生児の心身の変化の特徴に沿った看護について 3. 実習記録における事前学習課題について学習を進める。	

使用テキスト:	その他参考文献など:
母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論、小児看護学援助論等で使用したテキストを活用する	適宜紹介する

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
＊本実習の目的を理解し、目標の達成に必要な行動目標を明確にし、計画性を持って取り組んでください。
＊実習の計画、実施についてはスタッフ及び教員に連絡・報告を密に行いながら実習に臨んでください。
＊母性看護学概論、母性小児疾病治療管理論、母性看護学援助論　で学んだ知識と技術を統合し実践できる機会です。
また、日頃接する機会が少ない方を対象に実習を行うので、看護実践の機会を大切にし積極的に実習に臨んでほしい。

看護学科

科目名: 精神看護学実習					担当教員 氏名: 坂東紀代美 他
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修／選択	備考
2	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
当事者なりのウェルビーイングのための問題解決方法を当事者とともに考える援助技術を習得する。また退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学習を深める。	精神障害と生活障害 人格の尊重 早期退院 地域生活支援 ストレングス

授業における学修の到達目標

学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10
A 知識・理解力	精神科疾患について理解し障害者の生きづらさを理解する。 患者の治癒過程を理解し、看護の役割を意識して援助の方法を考え実習の中で展開する。
B 専門的技術	
C 論理的思考力	早期退院の精神科医療を理解し患者個々に適した資源の活用を考慮して入院期間の援助を考えることができる。 患者の情報を的確に収集・アセスメントし看護計画で実践できる。
D 問題解決力	
E 自己管理力	患者の症状や拒否的反応に対して感情的ではなく症状の一部として理解し対応する努力ができる。実習場で対象者に健康にかかわるための自分自身の心身的健康の管理ができる。
F チームワーク・リーダーシップ	グループ学習や患者との集団的かかわりの中で、自分の考えや意見を述べることができる。
G 倫理観	精神科の強制入院や行動制限・処遇について、病棟での実際の運用から実感として理解を深め実践の中で展開する。
H コミュニケーション力	

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %

特記事項:
・実習への積極的取り組みを重視する。
・レポート課題、実習記録の提出状況なども参考にして評価する。実習最終日に教員と面接し総合評価とする。
・実習前課題は、提出期日を厳守すること。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション (実習、フィールドワーク)

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
精神看護学実習は3週間の実習である。 実習施設:精神科病院・デイケアおよび就労支援事業所	・事前課題の取り組み ・国試問題による学習の確認 ・実習場所の法的根拠を理解しておく	
・患者1名を受け持ち、看護計画の立案・実施を通して精神科疾患患者の治療過程を学ぶ		
・デイケア・生活支援・就労支援について見学実習する		
実習日程などの詳細については実習要項を参照する		
・患者・家族・地域の理解		
・受け持ち患者を決定し看護を展開する		
・自立・就労支援の見学実習により、精神障害者の地域生活支援を理解する		

使用テキスト:	その他参考文献など:
精神科疾患管理論、精神看護学概論、精神看護学援助論の講義で使用したテキストと授業資料	こんなとき私はどうしてきたか(中井久夫、医学書院) 看護のための精神医学(中井久夫、医学書院)

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
・本実習の目的を理解し, 目標到達に必要な行動目標を明確にして取り組んでください。
・担当教員および指導者に報告, 連絡, 相談を行いながら実習に臨めるようにしましょう。
・講義(精神疾患管理論, 精神看護学概論・援助論)で学んだ知識と実習で学ぶ技術とを統合できる機会です。

看護学科

科目名: 在宅看護学実習				担当教員 氏名: 炭谷英信、炭谷靖子、高田亮子 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件)必修／選択	
2	2～3年次	通年	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:	病院、訪問看護ステーションなどでの実務経験を活かし、療養者および家族に応じた看護過程の展開、社会資源の活用方法を学生の体験を踏まえながら教授する。					

授業科目の学習教育目標の概要:	キーワード
在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解し、療養者及び家族に応じた看護過程が展開できる。さらに、社会資源の活用について具体的に学ぶ。	在宅療養、家族、社会資源

授業における学修の到達目標

学習教育目標(卒業認定・学位授与の方針との関連)	自己形成を進める行動目標(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10
A 知識・理解力	在宅で療養する人及びその家族の特徴を理解することができる。
B 専門的技術	在宅療養を推進・継続するための社会資源の活用方法を習得できる
C 論理的思考力	療養者及び家族に応じた看護過程を展開することができる。
F チームワーク・リーダーシップ	チームメンバーの一員として役割を理解し、チームに参画することができる。
G 倫理観	援助にあたり、尊厳や権利を尊重する看護の方法を習得する。

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート・課題: 60 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 20 %

特記事項:本科目はアクティブ・ラーニングの一環として4形態の施設で実習を行います。実習場でのカンファレンス、報告会、学内での学びの報告やディスカッションを通して学びの共有化を図り、療養者・家族に応じた看護展開ができることを狙いとしています。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート) グループワーク (プレゼンテーション) (実習、フィールドワーク)

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:事前学習、実習中の学習態度、記録物・課題レポートなどを総合的に評価します。
＊提出物は期限を厳守してください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録、提出課題に対してコメント記載および個人面談でフィードバックを行います。

授 業 計 画	準備学習(予習・復習等) 学習内容	学習に必要な時間(分)
実習期間・方法:令和3年 5月 10日～ グループごとに実施 実習施設: ・訪問看護ステーション ・富山型ディサービス等 ・地域包括支援センター ・訪問入浴サービス ・訪問入浴サービス ＊詳細については実習要項に記載	【予習】事前課題に取り組む。関連する教科書やこれまでの講義・演習の復習。 【復習】実習で経験した事柄について関連する教科書等で復習。在宅看護領域の国家試験問題の学習。	【予習】120分 【復習】120分

使用テキスト:在宅看護学関連講義(概論、援助論Ⅰ・Ⅱ)、家族看護概論、健康と法律、社会福祉概論等の教科書・資料 (今まで使用のもの)	その他参考文献など:国民衛生の動向等

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
①本実習の目的を理解し、積極的に実習に参加されることを期待します。
②行動目標を明確にして実習に望んでください。
③健康および生活管理を十分に行ってください。

看護学科　　３ 年

科目名： 看護研究Ⅲ（事例研究）					担当教員氏名：荒木晴美、炭谷靖子、坂東紀代美、大橋達子、小倉之子、髙田亮子、高橋絹代
単　位	開講時期（年次・期）	科目の区分	授業方法	ta	備考
2	3年次　前期	専門科目	演習	必修	

実務経験を用いてどのような授業を行っているか：	各領域での実務経験を活かし、各実習での活動事例をまとめ事例研究として報告できるように教授する。

授業科目の学習教育目標の概要：	キーワード
看護実践の場での看護展開や学びの実践活動事例をまとめ、学内で事例研究として報告する。まとめる過程で、看護実践と理論との比較や検討を行い実践における理論の活用について学ぶ。また、看護実践を言葉にして他者に伝えることを体験し、その必要性について学ぶ。	看護実践、事例の問題解決、理論と実践の統合、論文の書き方、発表能力

授業における学修の到達目標

学習教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連）	自己形成を進める行動目標（福短マトリックスで示される番号）	１．２．３．４．５．７．
A　知識・理解力	看護実践の問題を見つけることができる	
C　論理的思考力	理論と実践の統合を目指し思考を深める	
D　問題解決力	看護実践の中の問題に関する解決策を考える	
E　自己管理力	看護実践を研究論文としてまとめることができる	
H　コミュニケーション力	看護実践を言葉にし他者に伝えることができる	

成績評価の基準と方法：　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト：　％	レポート：60　％	発表：30%	実技試験：　％	その他：10　％（授業への参加態度や発言）

特記事項：

アクティブラーニング要素：
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：
以下により総合的に評価する。 ※グループワーク参加状況　※事例研究報告書　※プレゼンテーション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：

授　業　計　画	準備学習（予習・復習等）学習内容	学習に必要な時間（分）
令和4年4月　日（　）～4月　日（　）【受け持ち事例を選定してまとめる】	適宜、担当教員から指示を受ける	適宜、担当教員から指示を受ける
令和4年4月　日（　）～　日（　）発表事例を決めグループでまとめる		
令和4年4月　日（　）～　日（　）プレゼンテーションの準備		
令和4年4月　日（　）プレゼンテーション（口演）		
令和4年　月　日（　）までまとめ		

使用テキスト：研究Ⅰで使用のテキスト	その他参考文献など： 看護理論に関するものなど適宜参考にする

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：
〇担当教員との連絡を密接に行い、積極的に指導をうけること